

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Tomo de coco 児童発達支援				公表日	2026/03/05
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		・お子さんがストレスなく活動できるようスペースの広さを確保している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		・スタッフの配置数と利用幼児数が適切になるように調整している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		・学習スペース、身体活動スペース、おやつスペースを分けるなど「場所の構造化」を図っている。 ・光や匂いなど環境上の配慮も行っている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		・清潔で心地よい環境を育てよう、職員全員が意識して取り組んでいる。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		・個別ルームを設定し、落ち着いて課題活動に取り組める環境を準備している。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		・常に業務改善に努め、日々の打ち合わせでスタッフ間で共有している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		・保護者評価を実施し、スタッフ間で共有して業務改善につなげている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		・毎日、時間を決めてスタッフの打ち合わせ時間を設け、意見交換して改善につなげている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	5		・第三者外部評価については、今後、設置を検討したい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		・就業時間内に開催される顧問研修により、専門性の高い研修を継続的に受けることができる。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		・すべてのお子さんに共通する総合的な支援プログラムを作成し、HPなどで公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9		・普段から子どものニーズを把握するとともに、定期的に保護者のニーズを伺って児童発達支援計画を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		・多様な視点を取り入れる事ができるように、毎日の打ち合わせと情報共有を実施している。		

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		・児童発達支援計画をスタッフ間で輪読して共通理解を図っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		・幼児の発達と感覚・行動の状況を知るため、全てのお子さんにT式乳幼児発達検査、Jシミニ、感覚プロフィールなどを実施している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		・児童発達支援計画には本人支援だけでなく、家族支援、移行支援、地域支援・地域連携の全ての項目について具体的な支援内容を設定して保護者様にお伝えしている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		・感覚統合指導、ムーブメント療育、SST、ビジョントレーニング、運動療育等について、それぞれ数名のチームを組んで立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		・チームで毎日話し合い、活動プログラムがマンネリ化しないように工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9		・1日の療育時間の中に、個別活動と小集団活動を組み合わせて総合的に支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		・毎朝、療育前に担当するお子さんと小集団活動の内容について確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	1		・職員全体が送迎などで忙しい日もあり、翌日の打ち合わせになることもある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		・療育後は、課題への到達度だけでなく、意欲・態度面、身辺処理の状況、感覚と行動の状況など、多角的な記録を徹底している。さらに、AI活用により療育記録を分析し、改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		・保護者様との面談を含めたモニタリングを定期的に行っている。	
関係機関	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		・子どもの状況をよく理解したスタッフが、障害児相談支援担当者と面談するとともに、関係機関と情報交換している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		・保健、医療、障害福祉、保育等の関係機関と連携する体制を常に整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		インクルージョンを推進するため、保育所等の活動やイベントを優先して療育日を調整している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		・小学校の就学の際は、保護者様の意向を受けて「引き継ぎ書」を作成して渡している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				

や保護者との連携	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	9			・必要に応じて、地域の児童発達支援センターとの連携を図る機会を設けている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	3		・併行保育を実施しているため、利用している保育所等で地域のお子さんと一緒に活動する機会が保証されている。
保護者への説明等	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	9			・送迎時の伝達や電話、面接などを通して、お子さんの状況について保護者様と共通理解を図っている。また、療育の様子をSNSで適宜公表している。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9			・家庭支援と情報交換を目的として、ペアレントメンターによる情報交換会を実施した。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9			・運用規定等について、できるだけ詳しく説明している。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9			・日頃から子供の意向を把握すると共に、作成時には保護者様の希望を十分に聞き取って児童発達支援計画に反映している。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	2		・支援計画を保護者様に示し、支援内容や日常の関わり方について書面で丁寧に説明している。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9			・子育ての悩み等の相談がよせられた時は、速やかに対応している。ご希望に応じて面談も行っている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8			・保護者様が参加する「tomoに育つ会」を開催し、悩みごとなどの情報交換の場を設けている。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9			・こどもや保護者様からの相談や要望に迅速に対応できるよう、日常の関わりやオフィシャルLINEを活用して体制を整えている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9			・定期的に通信を発行するとともに、HPやSNS、オフィシャルLINEを活用して、活動概要や行事予定などの情報を保護者に分かりやすく発信している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			・個人情報が含まれた文書は、周知後シュレッダーで破棄すると共に、保管が必要な文書は鍵付きロッカーに収納している。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	1		・障害のあるお子さんや保護者様も理解できるように、視覚的に示すなどの伝達方法を工夫している。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	4		・地域の方々と一緒にできる活動について、今後、研究を進めていきたい。

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		・事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定すると共に、職員研修で周知を図っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		・業務継続計画を策定し、定期的に避難訓練等を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		・保護者様との面接時に、服薬状況やてんかん発作など、健康に関する情報を聞き取っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		・食物アレルギーのあるお子さんについては、保護者様との面談と書面で聞き取り、医師の指示書を基に対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		・安全計画を作成すると共に、避難訓練、感染症対応などの研修で共通理解を図っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		・安全計画に基づく取組について、SNSやお便りで周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		・ヒヤリハットが発生時には、速やかに職員間で情報を共有すると共に、再発防止のための方策を検討している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		・定期的に虐待防止研修を実施している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9		・やむを得ず身体拘束を行う場合の方針について組織的に決定し、研修と通して周知している。		